

～ 多様な主体の参画による家庭教育支援の充実に向けて～

# ほのぼの家庭教育づくり プログラム事業

孫育てホンワカアップ講座

父親カルネサンス推進講座

高校生による子ども・家庭教育支援アクション

徳島県教育委員会生涯学習政策課  
徳島県立総合教育センター生涯学習課

## 「孫育てホンワカアップ講座」

### 【対象】

地域での子育て支援や孫育てに興味のある方

孫育て・子育て中の方とその家族

### 【定員】

30名



家庭や地域の中のおじいちゃんやおばあちゃんはとっても力強い味方です。これまでの子育ての知恵と経験を生かして、育児に参加してみませんか。子どもやパパ、ママとの接し方に困った時に役に立つワークショップも体験できます。



# 「孫育てホンワカアップ講座」

第1回  
6 / 17  
(日)



「子育ての世代間格差とその支援」  
「造形遊びを通じた子どもとの関わり」(ワークショップ)  
鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授 阪根 健二

第2回  
7 / 1  
(日)



「孤立させない子育てとその支援」  
NPO法人子育て支援ネットワークとくしま 松崎 美穂子

第3回  
7 / 14  
(土)



「人間関係づくりとその支援」  
「子ども理解とコミュニケーション」(ワークショップ)  
鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授 粟飯原 良造

場所

徳島県立総合教育センター

# 「孫育てホンワカアップ講座」

祖父母の心の置き場を  
指し示してくれたようで、  
非常に参考になりました。

「機嫌が悪そうだから…」等、  
避けてきたことが多いことに気付いた。  
避けないこと、関わり続けることをこれから  
実践していこう。子どもの捉え方を変えると  
受け入れることができ、余裕ができそう。

初孫ができ、何かできることはないか  
と気負っていましたが、お話を伺って  
とても気持ちが楽になり、余計な力が  
抜けたような気持ちになりました。  
ありがとうございました。

今、孫育てと親の介護の真っ最中  
ですが、余裕ができましたら社会への  
恩返しをさせていただきたいと  
思いました。

ワークワークショップを通して、  
コミュニケーションについてよく  
理解できました。  
非言語の重要性がよくわかり  
ました。毎日生活することがよい  
お手本となれるようにしたいです。

新聞紙タワーの時  
間がとっても楽しかっ  
たです。帰って孫たち  
と作ってみます。



# 「父親カルネサンス推進講座」

## 【対象】

小学校3年生～5年生の子供と男性の保護者

男女共同参画、ワークライフバランス意識を持つ父親

地域教育の充実や企画に取り組もうとする父親

## 【定員】

20組

(1組2～3人)

お父さんの意識向上講座開講  
& 野外実践によるお父さんの  
コミュニケーション力UP講座で  
す。普段お子さんと触れ合う機会  
の少ないお父さんにピッタリの講  
座  
です！



# 「父親カルネサンス推進講座」

第1回  
7/7  
(土)



「絵本で絆を深める！」(親子対象ワークショップ)

鳴門教育大学大学院教授 余郷 裕次

「今年も お父さんと子ども おもちゃで遊ぶ！」(ワークショップ)

徳島文理大学准教授 岡山 千賀子

第2回  
7/21  
(土)



上勝町高丸山登山

活動メニュー: 登山・散策・(昼食)・自然観察・ゲーム

指導: NPO高丸山千年の森スタッフ

第3回  
9/1～2  
(土日)



牟岐少年自然の家 一泊研修

活動メニュー: シュノーケリング体験(プール)・夕食作り・

ナイトハイク・牟岐大島シュノーケリング体験

指導: 牟岐少年自然の家 指導員

# 「父親カルネサンス推進講座」

普段子どもと触れ合えていなかったが、この講座でお互いに触れ合うことができ、良かったと思います。

子どもが非常に満足しており、その姿を見ることができ、親としてもよかったです。

1回目の絵本の講座について、お二人の講師ともユーモアがあり、話も上手で非常によかったです。

牟岐大島のシュノーケリングで熱帯魚の群れを見られたことは、子どもにとっても良い経験になると思う。

1～3回目まで、異なる体験ができ、とても良かった。企画してくれた皆さんに感謝します。他の方にもすすめたいと思うので、今後も続けていただきたい。

このような活動はきっかけ作りが重要。活動の機会を多く提供したり、広報でもっと周知してほしい。



## 高校生による子ども・家庭教育支援アクション

### 目的

### 高校生の近未来における親としてのアクション

次世代に親となる高校生が乳児園，保育所，幼稚園等の乳幼児，放課後子ども教室，放課後児童クラブ，スポーツ少年・少女団等の小学生と交流し，子育てや幼児を中心とした教育を直接，経験することによって，高校生が自分の未来像をスケッチし，未来において親となる自分を準備する

### 高校生のコミュニケーション力アップ

次世代をになう高校生が，乳幼児・小学生という他者との関わりの中で，自己を意識し，他者と関わる力，いわゆるコミュニケーション力を身に付ける機会を提供する

## 高校生による子ども・家庭教育支援アクション

### 内 容

高校の企画による高校生と乳幼児・小学生との交流

### 交流内容例

高校生による，乳幼児のための読み聞かせ！

高校生の創造力を発揮した，おもちゃづくり！

高校生がこれまで学んだことを活かし，子どもたちに一生懸命に伝えることを通して乳幼児・小学生と交流！

## 高校生による子ども・家庭教育支援アクション

### 事業実施校決定のフロー

各校による交流メニューの企画書提出

各校による公開プレゼンテーション

優れたプレゼンによって交流校決定

# 高校生による子ども・家庭教育支援アクション

事業実施校 徳島県立池田高等学校

## 保育体験推進事業

～学ぼう！考えよう！子どもたちとの関わりの中で～

就学前の子どもとの交流（児童発達支援センターにて）

絵本の読み聞かせ講座を開催・参加

小学生との交流（地元読書団体にて）

防災ずきんの制作・配布活動

（平成24年9月～平成25年2月 課外時間を利用）

## 高校生アクション

徳島県立池田高等学校

★児童発達支援センター「みんなのつどい」  
における交流（12名参加）



通園児約50名の運動会に参加し、用具係・進行係を担当。



## 高校生アクション

徳島県立池田高等学校

★絵本の読み聞かせ講座の開催・参加（25名参加）

子どもたちへの  
読み聞かせの講義  
を受け、  
具体的な技術を  
学ぶ。



## 高校生アクション

徳島県立池田高等学校

★池田おはなし会における小学生との交流  
（19名参加）



三好市中央図書館にて、地元のおはなし会主催のクリスマス会に参加。約50人の小学生の前で「お話クイズ」を行い、コミュニケーションを楽しんだ。

# 高校生による子ども・家庭教育支援アクション

事業実施校 徳島県立新野高等学校

～子どもとふれあって、人と関わる楽しさを知る。～

文化祭交流用道具製作,文化祭に幼児・児童を招待

読み聞かせ講習会

音の交流

阿南市子どもフェスティバル

みかん狩り交流

幼稚園での演奏会

保育実習

(平成24年8月～平成25年2月)

## 高校生アクション

徳島県立新野高等学校

★文化祭に幼児・児童を招待（全校生徒）

★読み聞かせ講習会（13名参加）

★音の交流（22名参加）

★阿南市子どもフェスティバル（8名参加）

こうした体験を経て・・・



## 高校生アクション

徳島県立新野高等学校

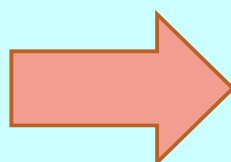
★みかん狩り交流（26名参加）

★幼稚園での演奏会（20名参加）

★保育実習（6名参加）



子どもとのふれあい・直接体験  
コミュニケーション力を高める



子育ての練習

## 高校生による子ども・家庭教育支援アクション

事業実施校 徳島県立名西高等学校

～高校生による乳幼児のための読み聞かせ～

絵本の読み聞かせ講習会（全3回）

絵本の読み聞かせ（高川原保育所にて）

絵本の読み聞かせ（高川原保育所にて）

絵本の読み聞かせ（光の子保育園にて）

（平成24年10月～平成25年12月）

## 高校生アクション

徳島県立名西高等学校

### ★絵本の読み聞かせ講習会

(①4名参加、②40名参加、③4名参加)



①②の講座の後、  
保育所での実践。  
その後③の講座を  
経て、保育園での  
実践を行う。

## 高校生アクション

徳島県立名西高等学校

### ★絵本の読み聞かせ（高川原保育所）

(①4名参加、②4名参加)

### ★絵本の読み聞かせ（光の子保育園）（16名参加）



保育体験学習実  
施園等における  
取組。  
大型絵本などを  
活用した読み聞  
かせを行う。

## 高校生による子ども・家庭教育支援アクション

### 事業後の各校の評価

池田高：子どもとの直の触れ合いを通して、多岐に渡る活動で、親子の絆の大切さ、コミュニケーション力の必要性等、多面的な視点が養成できた。

新野高：年間を通じての様々な交流活動により、子どもの発達を具体的に学んだ。人と関わる楽しさ・新たな人間関係を築く意欲へとつなげることができた。

名西高：「読み聞かせ」をテーマに絞り込み、講習を受け練習をした上で保育所での実習に取り組んだため、表現力・コミュニケーション力の底上げができた。

こうした実践の成果を・・

## 高校生による子ども・家庭教育支援アクション

### 今後の事業展開・展望

異世代交流の機会が減少の傾向にある。また、若い世代のコミュニケーション力の低下の問題も見逃ごせない。

そのため、実際に子どもたちと交流し、多様な活動を行うことは貴重な経験であり、高校生にとって、次世代に親となる準備のため、高校生自身が子どもをはじめ自分たちを取り巻く人々と円滑にコミュニケーションを取っていくためにも非常に重要である。

本事業はこうした目的を十分に達成するとともに、学校独自の視点・取組を活かす事業であると考えている。

今後も学校の主体性を重視しつつ、家庭教育の担い手を養成するために事業の継続・拡充を図りたい。